

午後 I 試験

問 1

問 1 では、保守サービス会社を例にとり、基幹業務系システムの強化・改善に関するシステム設計について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 1 は、(1)、(2)とも正答率が高かったが、(1)では、“見積書又は定期保守通知書の承認が登録されたとき”という解答に対し、“見積書又は定期保守通知書の作成時”、“受注登録時”といった誤った解答が散見された。(2)では、顧客との契約上での、案件の完了時期を問う問題であったが、“実績原価集計が終了したとき”、“工番損益が確定したとき”といった、社内的な完了時期の解答が散見された。

設問 2 は、正答率が低かった。手配計画には、作業の手配計画と部品の手配計画があり、ここでは部品の手配計画に関して問うているが、作業手配や原価に関しての解答が多く見られた。

設問 3(1)は、二つ挙げる業務機能のうち、一つは正答率が高く、もう一つは正答率が低かった。誤答の多くは、作業手配及び工事実施関連の業務機能ではなく、部品手配関連の業務機能を挙げた解答であった。

設問 4(2)は正答率が低かった。労務費の計算方法を問う問題であったが、直接経費である出張滞在費まで含めた解答が散見された。

システムアーキテクトとして、業務要件を十分に理解した上で、適切なシステム要件の定義、設計を行えるよう心掛けてほしい。

問 2

問 2 では、物流センタの新設を例にとり、業務の変更に合わせてシステム再構築での設計について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 1 は(1)、(2)とも正答率が高かったが、(1)の c について“出荷予定日までの入荷予定在庫”という解答に対し、“入荷予定在庫”だけの解答が多かった。(2)では、在庫マスタへの更新であるにもかかわらず、棚番別在庫ファイルへの更新の記述が散見された。

設問 2(1)は、棚番を特定すること以外の記述が散見された。

設問 3(2)は正答率が低かった。受注ファイルに対する処理以外の処理記述が散見された。図の業務フローと表の処理記述書を注意深く比較して読めば、防ぐことができた誤りであった。

システムアーキテクトとして、業務及びシステム要件を十分に理解した上で、適切な処理設計、ファイル設計が行えるよう心掛けてほしい。

問 3

問 3 では、勤務管理システムの開発を例にとり、利用者からの変更要望に対する対応について出題した。

設問 1 は、正答率が高かった。(1)のデータの管理方法は、今までバラバラに管理されていた 3 種類のデータの一元化について問う問題であったが、業務時間明細とプロジェクト別工数一覧の二つのデータだけを取り上げた解答が多く見られた。

設問 2 では、a、b、c の正答率が低かった。a、b は終業区分を問うているので、問題文中に現れる 4 種類の区分から解答を導き出せばよかったが、4 種類の区分以外の解答も少なからず見られた。c は、問題文の記述をそのまま引用して“連続する 3 か月の累計”と誤って解答した受験者が多かったが、これは穴埋めの文章をよく読めば、防ぐことができた誤りであった。

設問 3 では、(1)の内容と理由、及び(2)の社員の条件の正答率が低かった。(2)では、問題文の理解不足で、夏期休暇明細のファイル設計を誤解したと思われる解答が目立った。

システムアーキテクトとして、業務要件を十分に理解した上で、システム要件としてまとめ、それを正確に設計していくことができるよう心掛けてほしい。

問 4

問 4 では、遠隔操作可能な手術支援システムを例にとり、システムアーキテクチャの決定や、機能仕様の策定について出題した。全体として正答率は高かった。

設問 1(2)は、正答率が高く、題意はよく理解されていたようだが、単なる“伝送遅延”との解答が散見された。伝送遅延が双方向で生じることを問題文中の表現を用いて記述してほしい。

設問 2(2)は、伝送データ量を削減する方法として、“有利な点”及び“不利な点”を述べてもらいたかったが、“画像がより鮮明になる”などの記述が散見された。問題文中の条件を理解して記述してほしい。

設問 3 は、単に“送信データ量が削減できる”との解答が目立った。3D 化画像処理ユニットを手術台に設置することの利点を問う出題なので、それが明確になるように記述してほしい。

システムアーキテクトとして、アーキテクチャの特徴が与える影響を正しく把握するよう心掛けてほしい。